

## ミュンヘン便り

### ～ Sonnenaufgangfunktion（日の出機能）～

「Amselが鳴いている。ずいぶん近いなあ、ベランダにいるのかな。…（中略）…ずいぶん長く居座っているなあ。どれどれ、見てみよう。」

温かい春の休日、居間のソファに座っていた私は、どこか非常に近いところ、おそらくベランダで鳴いているのであろう鳥の声を耳にしました。ミュンヘンで春の到来を告げるこの鳥、Amsel（クロウタドリ、写真はWikipediaより）は、漆黒のボディに黄色いくちばしを持ち、とても良く通る美声の持ち主です。春夏はこの鳥の声で目がさめることもしばしば。この鳥はベランダ、公園、屋根のてっぺんなどあちこちでみることができ、人が近づいてもちょっとやそっとでは逃げません。



5分ほど歌声を聞いたあと、音源を視認すべく音源を探し求めて歩いた私は、音源が鳥ではなく自分の目覚まし時計であることを発見しました。この目覚まし時計は、目覚まし音として、「鳥の声」、「滝の音」、「海鳴り」

など数種類の音源を備えています。この「鳥の声」が素晴らしくリアルなので、てっきり本物のAmselだと思ったのです。どのくらいリアルかということ、上述のように本物と聞き間違えるほどであり、この「鳥の声」を目覚ましに使用すると、大変快適な声なので一旦は意識が覚醒するものの、布団から起き上がることなくそのまま布団の中で声を聴き続け、いつの間にか再び眠りに落ちるほどなのであります。

「春眠暁を覚えず」といいますが、私は春夏秋冬暁を覚えず、従って目を覚まし、布団から出るのは並大抵のことではありません。いつぞやミュンヘンのドイツ語学校に通っている際にその日の新しい単語「目覚まし時計」（der Wecker）が話題となり、先生に聞かれるがままに「2個使い、それぞれを違う時間にセットしている」と言ったら、先生およびクラスメート達に大笑いされました。そういう状態ですから、上述の快適な「鳥の声」で起床するはずがありません。

しかし、上記目覚まし時計は「鳥の声」よりももっと優秀な機能を持っているのです。それが「日の出機能」。時計にはランプが内蔵されており、それがセットした時間の少し前から少しずつ明るくなり、あたかも日の出のごとく部屋を少しずつ明るくしていき、セットした時間には完全に日が昇りきるのであります。これは効きます。写真は「日の出前」と「日の出後」の状態。

最近では、「日の出機能」と目覚ましの音



としてラジオとを使い、セットした時間には日が昇って部屋が明るくなると同時に、ラジオの音が鳴り出すようにしています。さらにキティちゃんの日覚まし時計を少し離れた洗面所において、15分後に鳴り出すようにセットしています。このキティちゃんの時計は、非常ベルのごとくけたたましい音を出すので、大変不快であり、これを消すために否が応でも立ち上がって洗面所に行かなくてはならず、故に布団から引きずり出されるのです。それでも、日の出とラジオとのおかげで既に意識が覚醒しているので、非常ベルでいきなり起こされて毎朝心臓がドキドキするということはありません。この日の出時計、大変優秀で気に入っているのですが、特許表示は見当たりません。太陽を模した丸っこい形、ランプ内蔵、鳥の声、ラジオ、日の出機能などだけでは、周知技術の組み合わせにすぎないのかもしれませんが。

ところで、ドイツ語は日本語と似ていて、単語と単語とをくっつけて長い新しい一単語を作れるという面があります。表題の Sonnenaufgangfunktion は、3つの単語から



なる新単語。Sonneは「太陽」、Aufgangは「上昇」、Funktionは英語とほとんど同じで「機能」の意味。つまり「日の出機能」です。

この時計、日本でも販売されているようです。朝起きるのに苦労されている方、ぜひお試しを！

### 筆者紹介

#### 稲積 朋子 (いなづみ ともこ)

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、GIP Europe Patentanwaltskanzlei所属。1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe (GIPグループミュンヘンオフィス) 設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。趣味は、山登り、ぼーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。